

2019 年度 第 1 回 一般社団法人 日本地球化学会理事会 議事録

日時：2019 年 8 月 13 日（火）13:00-15:20

場所：ビデオ会議（東京大学本郷キャンパス 理学部 1 号館 843 号室）

出席者：益田 晴恵、坂本 尚義、板井 啓明、上野雄一郎、太田 充恒、小畑 元、蒲生 俊敬
（監事）、川口 慎介、癸生川 陽子、小木曾 哲、下田 玄、橘 省吾、角皆 潤、中川
書子、服部 祥平、丸岡 照幸、南 雅代、横山 哲也

欠席者：原田 尚美、伊藤 正一、高野 淑識、高橋 嘉夫、福士 圭介、三村 耕一

・議事概要

定足数 12 名を超える 17 名の理事および 1 名の監事の出席を得て理事会が成立したことを確認した。

1. 審議事項

1.1 2018 年度第二回理事会 議事録の確認（資料 1）

資料 1 にしたがい、前回議事録の確認が要請された。とくに異論はなく、議事録は承認された。

1.2 2018 年度決算報告（資料 2）

決算監査の内容について、南会計幹事より説明があった。

収入について、会員収入費で端数がでていのは法人化の時の端数調整であり今年度で解消の予定であること、全年度の数字は 1 年分ではないため比較の際に注意すべきこと、刊行物売り上げは主に和文誌「地球化学」であること、年会開催収益は 30 万円ほど黒字であったことなどが説明された。

支出について、出版費は地球化学の印刷代がページ数減少に伴い減少したこと、発送費は若干増えたこと、会計業務委託費が 240 万円程度であること、zoom 会議による旅費削減が 10 万円程度であることなどが説明された。

予算対比表について、年会開催収益は 430 万円見込みが 340 万円であったこと、会員委託業務が 40 万円ほどの赤字であったことなどが説明された。

上記決算報告に対する蒲生監事の監査報告書が提示された。これを受けて、本決算報告を定例総会資料とすることが理事会で承認された。

1.3 2018 年度事業報告（資料 3）

事業監査の報告について、資料に基づき、板井庶務幹事より説明があった。日付等一部の記載事項を修正して、本事業報告を定例総会資料とすることが理事会で承認された。

1.4 社員総会議案（資料 4, 5）

資料 4 の式次第説明について板井庶務幹事より説明がなされた。役員を選任の方法と日時についてそれぞれ説明があり、承認された。

資料 5 の定例総会招集通知案について板井庶務幹事より説明がなされた。ハカキの送信費として約 18 万円必要であるが、全会員に連絡が届くことが必要なため、昨年同様郵送することが承認された。総会定足数は全会員の 1/10 以上であり、委任状と合わせて約 90 人分の出席が必要であることが確認された。

1.5 逝去会員の追悼文掲載等に関する指針について（資料 6）

板井庶務幹事より、逝去会員への弔花・弔電・追悼記事に関する指針策定について、資料 6 に基づき説明があった。議論の結果、名誉会員と会長経験者は弔電と献花を送ること、一般会員については状況に応じて会長が判断することが確認された。また追悼文は、名誉会員と会長経験者はニュース・地球化学（刷り上がり 2 ページが目安）両方に載せることが確認された。

1.6 JPGU セッションの英語化について（資料 7）

JPGU からの各セッション英語化の推奨通知に関する学会対応について、資料に基づき議論がなされた。学会の意見としては、「学生が発表しやすいよう工夫が望ましい」、「日本語でサイエンスが成立するという点は重要であり、なんでも英語化が是という風潮には疑問がある」、「JPGU セッションは、前年度枠に対して次年度の枠が決まるため、英語化して参加者が少なくなると困る」などの意見が挙げられた。結論として、地球化学会が主体となって提案しているセッションについても、学会から使用言語に関する要請を行うことはせず、各コンビーナの裁量で決定いただくことを確認した。

1.7 JPGU 代議員選挙について（資料 8）

次期の JPGU 代議員選挙について、学会としての戦略が議論された。前回は若手を中心に全 5 セクションに一人ずつ推薦したが、代議員としてほとんど仕事がなく、その制度そのものが疑問視されているとの指摘があった。代議員の中から選ばれる理事には決定権があるため、若手に限定せず、理事に選出されることまでを考えて人材を推薦することが大切との意見があった。これらを受け、選挙戦略よりも地球化学と JPGU との連携を重視するのであれば、会長・副会長は代議員にすべきという意見が出され、今期と次期の会長・副会長は候補者とし、各セクションの代議員候補者を決めるという方針が確認された。

1.8 その他（資料 9, 10）

1 件目として、今年度の夜間集会の内容について、将来計画委員の議論に基づく提案が示された（資料 9）。益田会長より、2022 年に IAGC 主催の Water-rock interaction conference が仙台で開催予定であり、その話を含めたいとの意見があった。ただ、横山国際幹事が夜間

集会に出席できないため、ゴールドシュミット誘致の件と合わせて優先度を下げることが確認された。公益社団法人化の話は、急を要さない内容であるが、将来を見据えてそのメリット・デメリットについて話を聞くことには意義があるとの意見があった。最終的に、国際と科研費の話題優先度を低くし、その他は適当に時間配分をして実施するよう、将来計画委員に差し戻すことが確認された。

2 件目として、益田会長が提示した倫理綱領案について、内容について早急にパブコメを実施し、結果を総会で報告したいとの意向が示された。これに対し、学会員全体に関わることなので、今年度の総会承認に拘らず、時間をかけて考えるべきとの意見も出された。また、専門家に内容を見てもらう必要はないかとの意見も出された。これらを受け、パブコメは短期間にはなるが実施をすること、総会では現在綱領作成中であることを報告すること、今年度の総会での決定に拘らないことが確認された。

2. 報告事項

2.1 総務（資料 11）

橘総務幹事より選挙結果の報告および選挙の改善法等について報告があり、メールによるリマインドが効果があり、投票率が向上したこと、会長・副会長の選任は学会の3日目に実施することが報告された。

2.2 広報（資料 12）

2.3 会員（資料 13）

年度末で会員数が減少していることが報告された。

2.4 その他

以上の議事を終え、15時20分に閉会した。